

2022年11月1日（火）神戸新聞（北播）わがまち



ゴムボートで水路を下る
子どもたち＝加東市松沢

「東条川疎水」 ボートで探検 役割など学ぶ

加東、小学生ら100人

鴨川ダム（加東市黒谷）を水源とする「東条川疎水」をゴムボートで巡り、歴史や役割を知る「水路de（デ）ボート」が、同市松沢の安政池のほとりなどで開かれた。市内の小学生ら約100人が、探検気分です疎水の歴史や仕組みを学んだ。

東条川疎水は加東市、小野市に生活用水を供給し、農業用水としても利用されている。イベントは29日、疎水を管理する兵庫県土地改良区が3年ぶりに開催し

た。

参加した児童は、兵庫教育大の学生ボランティアから紙芝居で疎水の基礎知識を学び、4人一組でボートに乗船。浅い水路約800㍎を約20分かけて下った。

ゴール付近には「水を送るのを助けているものはなんでしょう？」などのクイズを書いたボードを持った職員がおり、児童は紙芝居の内容を思い出しながら「サイフォン！」と元気よく答えた。

東条学園小中学校2年生の鷹尾悠生君（8）は「ボートのスピードが遅かったので、ゆっくり見学できた」と、仲間との冒険を楽しんだ様子だった。（伊田雄馬